

# 職域成人男性における歯科受診状況と口腔健康状態との関連性

○嶋崎 義浩<sup>1)</sup>, 野々山 順也<sup>1)</sup>, 宮野 吉和<sup>2)</sup>, 宮田 泰<sup>2)</sup>, 久田 和明<sup>2)</sup>

1) 愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座

2) 刈谷市歯科医師会

## 目的

職域の健康診断において歯科健診を実施している事業所は多くはない。本研究の目的は、職域歯科健診の受診者の歯科受診状況を把握することで、歯科受診と口腔健康状態との関連性を明らかにすることである。

## 方法

豊田自動織機健康保険組合では、30歳以上の5歳刻みの節目年齢を対象とした職域歯科健診を実施している。本研究では、2008～2012年度の健診を受診した男性のうちデータが揃っている3370名を対象者とした。歯科受診状況は、社会保険支出データをもとに歯科健診受診年度の歯科受診日数および歯科医療費（点数）を調査した。年間歯科受診日数を、0日、1～4日、5日以上の3群に分類し、年間歯科医療費を0点、1～2999点、3000点以上の3群に分類した。年間歯科受診日数と年間歯科医療費の組み合わせにより歯科受診状況を5群に分類した。口腔健康状態として、歯の状態およびCPIによる歯周状態の診査結果について、一元配置分散分析（Bonferroniの多重比較）およびカイ二乗検定を用いて歯科受診状況ごとの口腔健康状態の比較を行った。現在歯数（28本以上、20～27本、19本以下の3群）を従属変数とし、歯科受診状況および他の変数を独立変数とした多変量多項ロジスティック回帰分析を行った。

## 結果

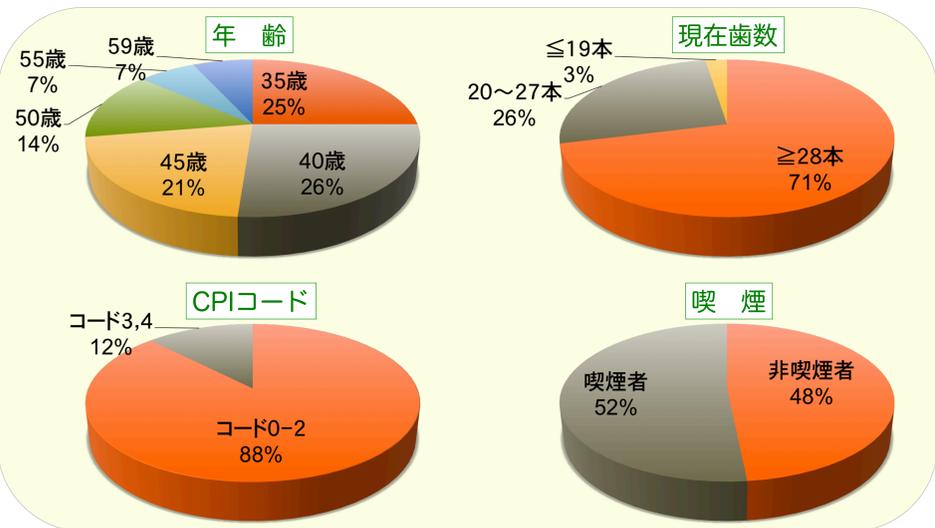


表1 対象者の歯科受診状況

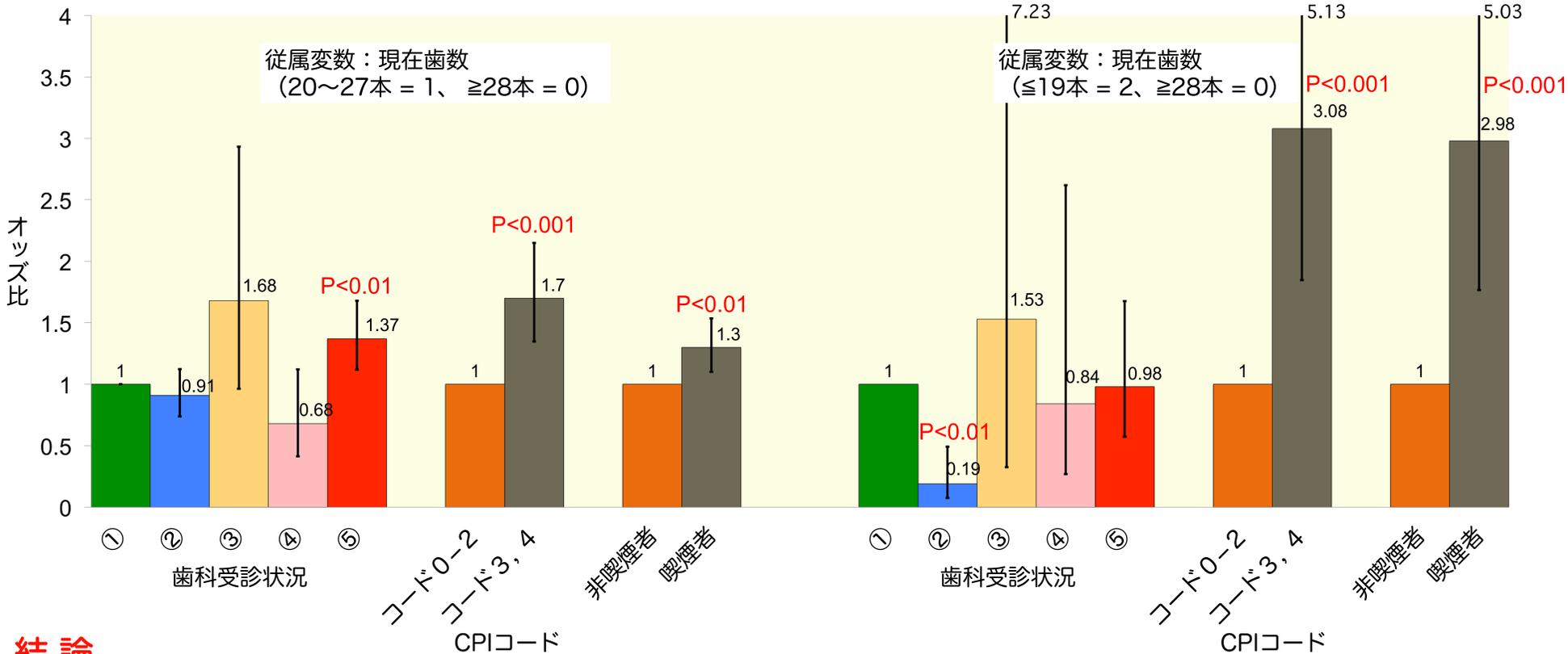
歯科受診状況		年間歯科医療費（点数）		
		0点	1～2999点	≥3000点
年間歯科受診日数	0日	① 1714 (50.9%)		
	1～4日		② 774 (23.0%)	③ 62 (1.8%)
	≥5日		④ 109 (3.2%)	⑤ 711 (21.1%)

表2 歯科受診状況ごとの口腔健康状態および喫煙者率の比較

歯科受診状況	現在歯数 (Mean ± SD)	健全歯数 (Mean ± SD)	未処置歯数 (Mean ± SD)	処置歯数 (Mean ± SD)	喪失歯数 (Mean ± SD)	CPIコード3,4 (%)	喫煙者率 (%)
	① なし (0日・0点)	27.8 ± 3.7	16.6 ± 6.6	1.6 ± 3.2	9.6 ± 5.4	1.0 ± 2.7	12.3
② 1～4日・1～2999点	28.1 ± 2.3	16.3 ± 5.7*	0.7 ± 1.5	11.1 ± 5.1	0.6 ± 1.2	9.7	42.8
③ 1～4日・≥3000点	27.6 ± 3.2	14.1 ± 5.8	0.8 ± 1.9	12.7 ± 5.4	0.9 ± 2.5	8.1	56.5
④ ≥5日・1～2999点	27.6 ± 4.2	15.6 ± 6.2	1.0 ± 2.3	11.1 ± 5.6	0.6 ± 2.2	12.8	46.8
⑤ ≥5日・≥3000点	27.1 ± 3.8	14.0 ± 6.0	1.1 ± 2.2	12.0 ± 5.3	1.0 ± 2.2	15.8	51.9

\*: P<0.05, \*\*: P<0.01, \*\*\*: P<0.001

現在歯数 (≥28本、20～27本、≤19本) を従属変数とした多変量多項ロジスティック回帰分析



## 結論

本研究より、少数歯喪失者に歯科医療費が高い者が多い結果は、歯の喪失に伴う補綴治療のための歯科受診を反映している結果であることが考えられる。一方、歯科受診者のうち年間の歯科受診日数および歯科医療費が低い者は、補綴等の治療よりむしろ定期管理等を目的として歯科を受診していることが考えられ、歯科を受診することが多数歯の喪失に対して抑制的に働いている可能性が示唆された。

※ 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。